

平成23年度第1回新潟市男女平等教育推進研究会会議概要

1 日 時 平成23年12月5日(月) 15:00～16:30

2 場 所 新潟市役所白山浦庁舎5号棟401会議室

3 出席者

(1) 委 員 (五十音順)

伊藤 雅人	濁川中学校長
岩崎 正法	亀田中学校教諭
大浦 容子	新潟大学教育学部教授
竹内 淳子	にいがた女性会議委員
堀川 真理	高志中等教育学校教諭
宮菌 衛	新潟大学教育学部教授
山下あい子	中野小屋中学校長
若山 大輔	横越小学校教諭

(2) 事務局

杉中 規彦	学校支援課指導主事
清水 久子	学校支援課指導主事

4 会議内容

(1) 開 会

「『新潟市教育ビジョン』後期実施計画で目標を掲げて取り組んでおります『男女平等教育の推進』に向けて、委員の皆様方からは、本年もご協力を賜りますようお願いいたします。」

(2) 会長・副会長選出

会 長	大浦 容子	新潟大学教育学部教授
副会長	宮菌 衛	新潟大学教育学部教授

(3) あいさつ

会 長

「平成7年、『男女平等教育推進研究会』が設置され、学校における男女平等教育推進に向けて本会が始動し、今日まで、学校での男女平等教育に資することを願っての

取組がなされてきました。その下で学んだ子どもたちが、次々に成人となる時を迎えました。男女平等の意識を身に付けた成人としての姿が期待されるところです。確かな育ちの姿を求め、平成23年度も、本会の歩みをしっかり進めたいです。」

副会長

「本会が編集・改訂を重ねてきた『活用の手引』を活用した学習指導で、子どもたちの成長が期待されます。この研究会のもたらすものは、子どもたちの学習充実だけではありません。委員である自分に、意識の高まり・深まりがありました。本年度も、自らが学ぶ姿勢で臨みます。」

(4) 報 告 (事務局)

① 平成22年度男女平等教育資料活用状況調査の結果について

◇ 資料を活用した学校の割合

小学校3年生 94.8%

小学校6年生 93.9%

中学校2年生 79.7%

新潟市男女共同参画行動計画における目標値 小学校100%、中学校80%に近い。

◇ 学校の年間指導計画への位置付け

小学校と中学校の両校種において、22年度も位置付けされた学校が増えている。位置付けを今後も促していきたい。

◇ 保護者に対する情報提供・啓発

学校に、学習資料の保護者会等での活用を呼びかけると共に、学習後は児童生徒の手を介して保護者宛文書として家庭に届け、情報提供を図るよう促した。

② 平成23年度の学習資料配付について

◇ 学習資料配布上の工夫

昨年度の本委員会における協議を受け、届いた学習資料が学校ですぐに活用できるように予め学校に文書で知らせ（5月下旬）、受け入れ体制を整えてもらい、その後、学校に届くよう手配した（6月上旬）。

◇ 改訂「活用の手引」＜小学校6年生＞

【題材 役割分担を考えよう ～男女平等ってなんだろう～】

問題提起の「学校」「家庭」の生活場面のうち、学校場面における人物の吹き出しの続きを考えさせる工夫で、児童が自分の日常の様子、自分の考えていることを表しやすくした。その上で、グループでの話し合いを通して、友達の考えとの異同に目を向けさせ、課題と向き合うような学習の流れを構成した。

◇ 改訂「活用の手引」＜中学校2年生＞

【題材：性差にとらわれない真の能力・個性の発揮とは】

● 手引掲載「資料」の変更

(前の資料)

新潟市児童生徒と教員の男女平等にかかわる意識調査(2002年)結果の
グラフ

(新しい資料)

- ① 男女共同参画に関する法律等(概略)の紹介
- ② 厚生労働省「イクメンプロジェクト」の取組 情報
- ③ (体験の書籍出版を行った)男性の育休取得者 紹介

● 学習展開例の変更

学習資料掲載の日本における「男女共同参画」の意識の様子を知る国際統計数値資料に加え、今年度は「活用の手引」に、日本の法律制定の概要・厚生労働省「イクメンプロジェクト」の取組等を紹介した。社会変化の理解を図った上で、性別にとらわれるのではなく、能力を発揮していく自分の生き方を考える学習となることを期待した変更である。

(5) 協議(委員の発言要旨)

① 小学校6年生「資料」を用いた学習

<指導上効果的であったこと・有益であった内容の紹介>

- ◇ 学習資料を単独で使うのではなく、例えば「道徳」で学習資料「こころのノート」あるいは道徳の他の資料と関連付けて使用することも効果的である。
- ◇ 学習資料中の「性別にとらわれた役割分担」場面について考える学習で、児童による賛成・反対意見の交換が「男女平等」観を育てる場として有効である。
- ◇ 身近な係分担・役割分担に関する内容であるので、実感を伴った意見交換を作り出すことにつながった。

<指導充実に向けての提案>

- ◇ 実践化につなぐため「○○では、どうしますか？」等の行動を考える投げ掛けをしたい。
- ◇ 児童の学習時の発言の言葉や様子、学習後の実践の様子や行動の変容等をたよりで家庭にも知らせ、生活全般での意識変化とそれによる行動化を支えたい。

② 中学生「資料」を用いた学習

<指導上効果的であったこと・有益であった内容の紹介>

- ◇ 学習資料を最初に配付せず、「育児期にある夫の1日の育児、家事時間の国際比較」と『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方に関する意識調査」の2つのグラフについて、国名を隠して、どれが日本かを生徒に予測させ

た。映画に登場する「ベビーシッター」などのイメージからか、欧米の国々を日本より低く予測する傾向があり、生徒にとって（実際の統計数値）は意外性があった。

- ◇ 資料を小出しにしていくことも一つの方法である。
- ◇ 『「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方』に関する統計数値をどう思うかについて意見交換をさせたところ、この考えに反対する男子が授業者の予想より多く、活発な意見交換となった。

その中で、「快適な暮らしを送るために夫婦で働く」といった経済的な理由を挙げた生徒が目立った。

- ◇ 学習資料「活用の手引」掲載の『法律制定等の情報』を生徒に提供することで、社会全体での取組を知らせることができた。資料が、男女平等の意識の高まりの様子、それに伴った具体的な取組等の社会の変化を生徒に気付かせる機会となった。

◇【進路指導での学習例】

自分らしい生き方について考える学習において、「男の職業、女の職業」という固定的な考えにとらわれず、自分の能力や個性を發揮している人の存在を理解する場面を設けた。その際行った、平成 23 年度「進路指導学習資料集」（新潟市中学校教育研究協議会 進路指導部編）の巻頭言「ぼくの将来の夢は保育士になることです・・・」の紹介が、生徒から「保育士に対してもっていたイメージが変わった」という声が聞かれた。

◇【職業体験での学習例：実施予定の学習の流れ（構想の紹介）】

- 身近に見られる「男女の仕事分担の偏り」（学校で・家庭で）に着目する
- ↓
- 学習資料から現状と課題を把握する
- ↓
- 現状理解、他との意見交換から自分の考え・行動化プランをもつ
- ↓
- 担任は、生徒の意見や学習の様子を「学級たより」で家庭に届ける予定

◇【道徳での学習例】

「男女〇〇」の熟語を連想させ、そこで出た「男女平等」の言葉について、なぜこの言葉があるかを考え、その中で「男女不平等」状況の存在に目を向けていった。この段階で、社会の状況（国際比較数値・法律制定の動き等）理解につながる資料提供を図り、自分や周囲のこれまでを振り返り、更に今後を見つめさせていった。

<指導充実に向けての提案>

- ◇ 考えて学習を終えるのではなく、行動を促したい。 <行動化>

- ◇ 職業を語ってもらう講師との出会いを設ける場合、男性・女性のどちらの話も聴けるようにしたい。
 - ◇ 子どもたちの学習時の声や子どもたちの行動の変容等，子どもたちの様子を伝えることで家庭に情報を届けたい。 <家庭への資料配付>
 - ◇ 子どもたちと保護者が一緒に課題に向き合う学習の場を，オープンスクール等の形で設定したい。 <学習形態の工夫>
 - ◇ 各人が新聞記事，調査統計数値に目を配り，最新のものを提供していきたい。 <データ提供>
 - ◇ 「イクメン」経験者の声も資料に載せたい。
- ④ 教育活動全般に関する意見・感想
- ◇ 各校で，人権教育・道徳・進路指導等，学習の場をどこに設けるかを考え，しっかり位置付けされた効果的な指導がなされるよう呼び掛けていきたい。
例えば，人権教育とリンクさせた指導では，人権教育のどの場面で「男女平等教育」について取り扱うかを指導計画上に位置付け，効果的な指導を働き掛ける。
 - ◇ 年々，提供する学習資料の充実が図られていると感じている。
 - ◇ 各学校で指導の工夫がなされていることが，学校籍の委員の発言から分かる。
 - ◇ 子どもたちの学習の機会を生かし，男女平等に関する家庭への呼び掛けを行っていきたい。

5 閉会